

竹内議員

説明資料

何人来たか、 ではなく、 何を残したか。



緑のフェアを、未来のまちづくりへ。



亀岡市・南丹市・京丹波町

2市1町には**自然体験資源**がある！

亀岡市の自然体験



ラフティング



パラグライダー

南丹市の自然体験



るり溪温泉



スプリングスひよし



美山の森

京丹波町の自然体験



カヌー



豊かな自然を活かした体験が、子どもたちの**学びと成長**につながります！



新 規



子どもファースト宣言!!

「体験育」推進プロジェクト ～「全国都市緑化フェア」児童体験事業～

予算額 4,800千円

《事務局事務経費》

みどりがもたらす快適で豊かな暮らしがあるまちづくりを進めるため、全国各地で開催されている「花と緑の祭典」が京都丹波で開催されることに際し、市内の小学校及び義務教育学校(前期課程)の児童が、教室での学びにとどまらず、自然体験、社会体験、文化体験などの「体験活動」を通じて、学び、成長する「体験育」を実践し、児童の五感や人間性、自ら考え行動する力を育む。

また、児童が今住んでいる日本の原風景ともいえる緑豊かな自然という恵まれた環境と文化的価値を再発見する機会を創造する。

- 開催時期: 令和8年9月18日～11月8日
- 会 場: 京都・亀岡保津川公園、亀岡運動公園



学校教育課 TEL0771-25-6786

自然体験を中心に、すべてが**つながる**まちづくりへ

自然体験型・環境先進都市 亀岡



亀岡は20年以上前に、
もうやっていた。



地球環境子ども村

自然



×

体験



×

子ども



×

教育



2000年代

自然に触れ、体験し、考える子どもを育てる

2026



原点があるから、未来をつくれる。

地球環境子ども村宣言

平成14年3月28日

～ 25年前、亀岡は宣言していた～

- 未来を拓くのは**子どもたち**
- 子どもたちに**学びと育ちの場**を提供し続けよう
- 子どもたちとともに**環境学習・体験学習**を深めよう



亀岡市全域を
「地球環境子ども村」と宣言する

家庭・学校・地域・市民・行政が手をたずさえ、未来の地球を子どもたちへ





学校教育と連携していた!?

～ 地球環境子ども村 活動の一部を紹介します ～

教育機関との連携（一部紹介）

吉川小学校	4年生	「総合的な学習の時間～魚や水生生物の捕り方と説明～」
詳徳小学校	4年生	「社会見学～野鳥の観察～」
大井小学校	5年生	「野外活動～イカダ作り～」
南つつじヶ丘小学校	6学年PTA	「環境学習とネイチャークラフト」
亀岡小学校	4年生	「総合的な学習の時間～水環境のフィールドワーク～」
安詳小学校	4年生	「総合的な学習の時間～魚や水生生物の捕り方と説明～」
城西小学校	子育て学級	「地球環境子ども村で野外活動」
第2亀岡幼稚園	年長児	「園外保育 ～自然体験・森遊び～」
西別院小学校	4年生	「総合的な学習の時間～ロープワーク・竹公園作り～」
一の宮幼稚園	全国児	「園外保育～自然体験・ジオラマ遊び～」
南つつじヶ丘小学校	なかよし学級	「バケツ稲指導」
曽我部小学校	教職員	「夏期職員研修」

などなど・・・

自然の中での体験を通して、
子どもたちの「生きる力」と
「環境を思う心」を育てていました。



森・川・生きものとふれあう体験がいっぱい!



森を歩き、樹木や生きものを観察



川の生きものを調べよう!



川はみんなを笑顔にしてくれます



こんなに高いところまで行けちゃった!



みんなで力を合わせて、イカダ作り!



夢中になって生きものの探し



みんなで作るごはんは最高!



自然体験は、単なるイベントではなく、**学校教育の中で「学び」**として行われていました。



「亀岡型自然保育」の取り組み



＝原体験から『生きる力』を育む＝

自然の大きさ、美しさ、不思議さに直接触れる体験を通して、豊かな感性、好奇心、思考力、表現力などを培い
困難にも挑戦し幸せな人生を歩むための土台を作る。

水

水は流れたり、色が付いたり、粒になったりと形や色が変わります。子どもたちは、遊びの中で様々な発見をし、試しながら楽しんでいます。

また、川に入ると、水の流れや冷たさを体で感じ、歓声をあげ遊んでいます。



土

土は恵みの大地で、さまざまな生命を育みます。畑で野菜を育て収穫することを喜び、食べることを楽しんでいます。そして、土を掘りおこすと、色々な生き物と出会います。そこには驚きと面白さがあります。

崩れた築山を自分たちで土を運び直しました。

「亀岡型自然保育」の取り組み

遊びは学び 自然は友だち

別院保育所

できた！



保育は、たくさんの遊びの中で、何度も考えては試して、また挑戦しての繰り返し。試行錯誤を繰り返し、作った自慢の釣り竿でサワガニを釣り上げた時の喜びはひとしおです。釣れなかった子も、「あしたは、ぜったいにつるぞ！」と意気込んでいました。そして、再挑戦！「やった！つれた！」お迎えの保護者に、釣ったサワガニを見せて、その時のことを楽しそうに話していました。

おもしろい



「雨ふり散歩」

雨降りだってお散歩できる♪それに雨上がりのお散歩は発見がいっぱい。

マイマイの歩いた跡やカエルなど色々な生き物との出会いがあります。



「神社っておもしろい」

色々な形、大きさ。様々な木や石、色とりどりの実や草など発見がいっぱい♪

子どもの好奇心や探求心は、果てしなく広がっていきます。

なんだろう？



「友だちと一緒に
楽しい♪」

一緒に見比べたり、並べたり、何かに見立てたり…。思いを伝え合い、共有したり違いを感じたりしながら、一緒にいる楽しさを感じています。

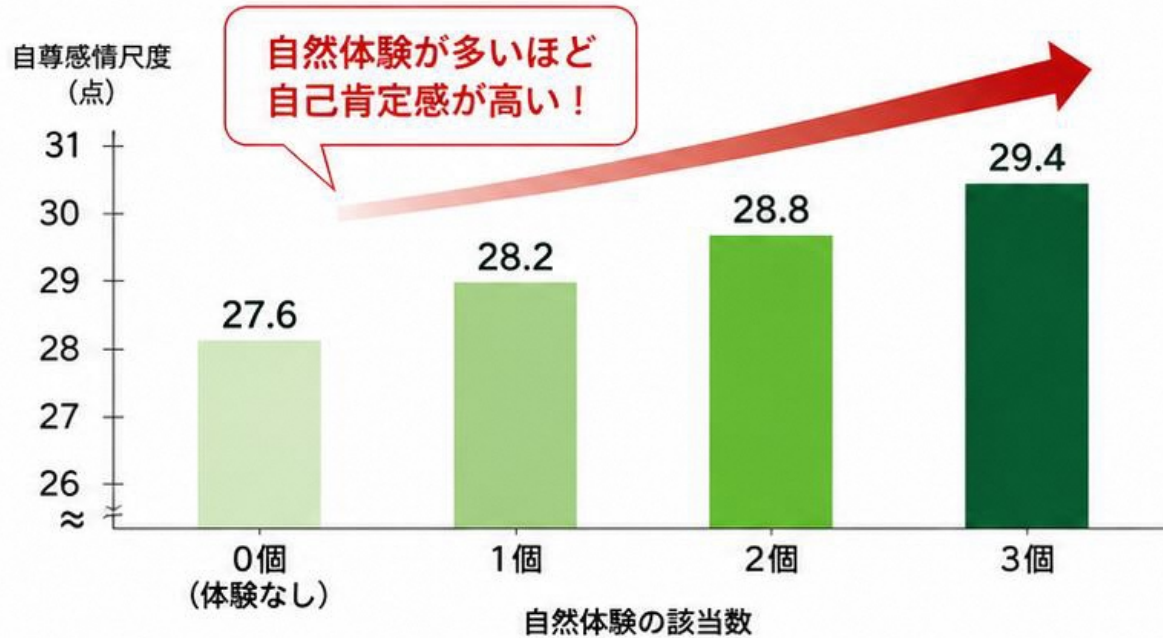


自然体験・自然教育が子どもに与える効果

自然体験が豊富な子どもほど、自己肯定感や探究力、自立性などが高い傾向
学習意欲や学習成果にも好影響が報告されています

■ 自然体験の多さと自己肯定感の関係（全国調査）

～自然体験の数が多いほど「自尊感情尺度」が高い～



出典：国立青少年教育振興機構「子供の体験活動の実態に関する調査研究（令和3年度）」

■ 自然体験が子どもに与える主な効果（文部科学省資料より）



自己肯定感の向上

自分に自信が持てるようになり、前向きな気持ちが育つ



自立的な行動習慣

自ら考え、行動する力が身につく



探究力・問題解決能力の向上

自然の中で「なぜ?」「どうして?」を考え、解決する力が育つ



社会性・協調性の向上

他者と協力し、思いやる心が育つ



学習意欲・学習成果への好影響

学ぶことへの興味・関心が高まり、学力向上にもつながる傾向



自然体験は、子どもたちの「生きる力」と「ウェルビーイング」の基盤を育みます

調査対象

全国の小学5年生～中学2年生 約18,000人

その他の研究

全国学力・学習状況調査でも、自然体験が多い児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が報告されています。

国も自然体験・体験活動を重視し、教育政策を推進しています

文部科学省は「リアルな体験」の機会を充実させ、子どものウェルビーイング向上を目指しています

文部科学省の主な取組



■ 教育的効果の高い長期自然体験活動構築事業

予算額（2026年度案）約3,181万円

- ・ 4泊5日程度の長期自然体験活動プログラムを構築
- ・ 教育的効果を検証・明らかにする
- ・ モデルプログラムをパッケージ化し、全国に展開



■ 健全育成のための体験活動推進事業 予算額（2026年度案）1億円

- ・ 自然体験、農山漁村体験、登山、文化芸術体験などを支援
- ・ 学校や地域における体験活動を通じて、
自己肯定感や協調性など、子どものウェルビーイング向上を図る

その他の取組



自然体験活動の
推進・モデル事業



企業等と教育機関の
連携促進



自己肯定感向上
プロジェクト



自然体験活動
指導者の養成



地域の自然環境や
教育資源を活用

国が目指す方向性

知識を教える教育に加え、
「リアルな体験」を教育の両輪に！

- ✓ 自然の中での体験は、
子どもの「生きる力」や「ウェルビーイング」
の基盤を育みます。
- ✓ 自己肯定感、探究心、自立性、社会性、
学習意欲など、子どもの成長に大きく寄与します。
- ✓ 不登校児童生徒への体験活動も支援対象に！
一人ひとりの育ちを支える重要な施策です。



自然体験・体験活動は、次代を担う子どもたちの**成長に欠かせない教育**です

自然体験で、一生をつなぐ。



自然体験で、一生をつなぐ。

生涯学習のまち・亀岡

森のステーションかめおか

いろいろあって、 何の施設なの？



何の建物？
教育施設？
研究施設？
それとも
別の目的？



亀岡市みらい教育
リサーチセンター



ブランコ
使用禁止



アスレチックコース
立入禁止



310

相談室 1

相談室
1

昆虫・爬虫類？
植物・草花？
科学実験？
博物館？
海のことや
生き物？

歴史？
星空・宇宙？
環境について？
川のこと？
などなど…



カメロックス

309

なごみルーム

なごみルーム

今後、どうする方針なの？

- このまま維持・活用するのか？
- 安全面や整備の課題は？
- 自然体験や環境教育に
もっと力を入れるのか？
- 地域や子どもたちのために
どのような拠点にするのか？
- 市民が気軽に利用できる
開かれた場所にするのか？

などなど…



③ 亀岡市も「自然を学ぶ新たな拠点整備」を計画に明記しています

亀岡市水と緑の基本計画（概要版）にも、明確に位置づけられています

基本市針3 レクリエーションや学び

取組 13 森のステーションかめおかの活用や 自然を学ぶ新たな拠点の整備

- 森のステーションかめおかには、本市の自然環境に関する多様な体験ができる機能があります。
- このポテンシャルをさらに活用していきます。
- また、環境学習や自然体験の新たな拠点整備を検討します。

森のステーションかめおかのポテンシャル



豊かな自然環境
森・川・里



多様な体験機能
自然体験・学習



宿泊・研修機能
合宿・研修に最適



星空などの資源
天体観測・夜空

➡ 市もすでに「自然を学ぶ新たな拠点整備」を掲げています。
今こそ、この計画を具体化し、森のステーションかめおかの可能性を最大限に活かすときです。

私は、地球環境子ども村の拠点を 元に戻してほしいと言っているわけではありません。

これまで

地球環境子ども村の拠点



だからこそ、
今こそ！



今だからこそ

Circular Kameoka Labという
新たな環境拠点ができた



宮前町の森のステーションの役割を改めて見つめ直し、

亀岡の豊かな自然そのものを教育資源とする

「自然体験・自然教育の拠点」

として再定義してはどうかと考えます。



自然にふれる



自然を学ぶ



点を、線に。未来へつなぐ仕組みをつくる。

SOFT

受け継がれてきた力

- ・理念・カリキュラム
- ・人材・ノウハウ
- ・20年以上の蓄積



HARD

整ってきた拠点

- ・地球環境子ども村
- ・自然体験の場
- ・施設・設備の充実



FIELD

つながるフィールド

- ・亀岡市・南丹市・京丹波町
- ・京都丹波まるごと
- ・自然と地域をつなぐ



SYSTEM

つなぎ、育て、広げる仕組み

- ・幼児期から生涯学習まで
- ・教育・環境・保育・観光が連携
- ・一貫した体験の流れをつくる



点を、線に。

自然体験でつなぐ、未来の京都丹波へ

52日間のイベントから、 一生続く学びへ。

52日間

全国都市緑化フェア



出会い・感動・体験



一生続く学び

自然体験 × 学び × つながり



自然を知る > 好きになる > 大切にする



自然体験型・環境先進都市 亀岡

—— 未来の子どもたちのために、今つくるレガシー。 ——